

# 第2回 栄養とリハビリテーション研修会

## 地域リハ

## 医療モデルから保健モデルへ

—生活者としての高齢者とリハビリテーション栄養の可能性—

### 講師 大友昭彦氏

(株式会社 リハサポート桜樹 代表取締役社長・RPT)



**日時** 平成29年9月2日(土)  
14:00 ~ 16:00 (受付 13:30~)

**会場** 酒田市総合文化センター

**参加費** 無料

#### <講師プロフィールと講演内容>

1959年生まれ、58歳。1983年国立仙台病院附属リハビリテーション学院卒業(第1期生)。職歴は仙台鉄道病院→鶴川厚生病院→プー太郎→社会福祉法人宮城福社会→(株)リハサポート桜樹(現職)。筑波大学大学院医科学研究科での高齢者の運動動機についての研究や福島県立医科大学医学部、衛生学・予防医学教室での脳卒中後遺症者のソーシャルサポートについての研究を経て、平成21年10月にリハサポート桜樹を設立。現在、デイサービスセンター、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所を運営している。

来年行われる医療・介護保険同時改訂は、2025年問題を大前提に設計されてきた制度への最終メルクマールといわれています。その中で私たちリハビリテーション専門職種が果たすべき役割は「障害があってもできるだけ自立した、その人らしい生活を地域で具現化する」方法論を構築し実践することです。これは、地域リハが連綿と取り組んできたことであり、今に始まったことではありません。しかしこれまでは強力な方法論が無かったのではないのでしょうか。栄養とリハビリテーションのコラボレーションは、この方法論となる可能性があると感じています。

今回の講演では、リハビリテーション栄養の教科書的知見を踏まえながら、昨年行った訪問看護ステーション利用者の低栄養調査、今年行うサルコペニアに関する調査結果をお示ししつつ、今我々が取り組むべきことを一緒に考えていきたいと思えます。

協賛：株式会社 クリニコ

主催：栄養とリハビリテーション研究会

問い合わせ先：老人保健施設 明日葉 TEL：0234-22-3885(代) 担当 今野